

# シリーズ⑧ 地域の目



あまわり浪漫の会会長  
**長谷川 清博**  
(はせがわ・せいひろ)

## 「感動体験舞台」への誘い！



2000年3月の寒風吹きさす勝連城跡での記念すべき初演から、今年の6月で105回（観客動員数75,000余人）の公演を達成した中高校生による舞台、現代版組踊「肝高の阿麻和利」が、う・ま・市に存在することを皆さんは存じでしょうか。現代版組踊とは、沖縄の古典芸能の組踊を現代風にアレンジした舞台で、出演者は全て地元の中高校生です。

この舞台の物語は、これまで歴

史上、時の首里王府に謀反企てたとして「逆賊」のレッテルを貼られた、勝連城10代城主「阿麻和利」の人物像を違った歴史視点から検証し、民草の王として領民から慕われた阿麻和利按司の真の姿を現代の子供たちが紐解いていくストーリーです。

当初、この舞台は期限付事業の一環として与勝地域の中学生を対象に、当時の勝連町教育委員会会の主催で行われ、稽古当初は参加者が少なく先行きを心配しましたが、回を重ねる毎に参加者も増えていったのです。迎えた本番の日は、満員の観客の前で一生懸命に演技する子供たちの姿に、客席からは惜しめない拍手が寄せられ、会場は感動の渦に包まれました。これまで携わってきた関係者の誰もが、大観衆の前で堂々と表現する子供たちの姿をまぶしく、そして頼もしく感じた一日だったと思います。この取り組みで体験した感動を自分たちだけでなく、後輩た

ちにも体験させたいと再演を望む子供たちからの真剣な願いに、大人たちが揺り動かされました。出演者の父母で、舞台をサポートする「父母の会」を結成し、教育委員会と連携を取りながら舞台の継続に尽力しました。01年には、き・む・た・か・ホールの竣工に伴い、舞台をサポートする「父母の会」から、ホール運営を支援する団体として「あまわり浪漫の会」を結成し、ホールを拠点として活動を展開してきたところです。

これまでの主な活動として、03年には、公的な補助金や助成金を一切受けない公演を関東5カ所で行いました。また05年には、子供の舞台としては初の「国立劇場おきなわ」での公演。さらに07年には、「阿麻和利按司」の居城であった勝連城跡での自主公演を成功させたのです。公演活動を重ねるにつれ、この取り組みが確実に地域に浸透し、さらには、県内外にも広がりをみせています。

この舞台は、中学1年生から高校3年生までの6年間参加することができ、毎年世代交代を繰り返しています。日ごろ、稽古する仲間と共に演じる喜びを舞

台上で表現する子供たちのひたむきさに、観劇された方々から激励の言葉を掛けてもらうことで、地域を誇りに思う気持ちと仲間や舞台制作に携わる周囲の大人たちへの感謝の気持ちが育まれていきます。

今年の100回公演での光景が忘れられません。卒業生と現役メンバーとの感謝のバトンリレーが行われました。現役メンバーから卒業生への「舞台の礎を築いてくれたこと」への感謝、そして卒業生メンバーから現役メンバーへの「舞台を続けてきてくれたこと」への感謝をお互い称えながら抱き合う姿があったのです。そこには、先輩から後輩へと確実に受け継がれ守られている熱い思い「肝高の志」が感じられました。この舞台はこれからも勝連を拠点に、舞台を守り育てていく人材と稽古場を確保しつつ、子供と大人が協働して創り出す感動体験舞台を発信し続けていきたいと思っています。

「琉球の船を世界中に走らせたい！」という阿麻和利按司の夢の実現に向け。